

第 16 期 事業報告書

2025 年 6 月 1 日～2026 年 5 月 31 日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。

そのために、以下 3 つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB 掲載等に活用するための情報リサーチ

1. 寄付支援事業

【目的と意義】

2 つの目的を掲げている。1 つ目は、日本の動物福祉を世界トップレベルにするために、現場で問題に向き合う非営利活動法人へ寄付による支援活動である。2011 年 9 月にスタートした寄付サイト「アニドネ」は支援をする認定団体は 4 カテゴリー（保護団体・介在団体・伴侶団体・啓発団体）を対象とし個人・企業から寄付を募り、団体へ届ける中間支援である。2 つ目は、正しい寄付文化醸成である。犬や猫も社会的弱者であり寄付で救うべき存在である。しかしながら、昨今透明性や信頼性にかかる営利寄りの寄付が散見される。私共は公益法人として、あるべき姿の寄付活動を提示し寄付文化構築に貢献することも目的としている。

16 期終了後の寄付累計額は約 8 億 1,600 万円で年々増加傾向である。16 期の内訳は約 6 割が個人による寄付、約 4 割が企業・団体からの寄付であった。

支援先は 9 団体が追加され 53 団体。カテゴリー別に保護 37 団体・介在 5 団体・伴侶 3 団体・啓発 8 団体である。

1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し個人からの寄付を集め支援先団体へ届ける事業が主。16 期は寄付サイト「アニドネ」のトップページ等の主要箇所の改修および決済箇所の改善を実施。また強固なセキュリティ対策も導入。より安全でスムーズな決済が可能な仕組みを取り入れた。

アニドネレガシー（遺贈寄付）は、より詳細な資料を web サイトに掲載。今期、相続によるご寄付および遺贈寄付は 4 件であった。

「紺綬褒章認定法人」として、16 期には 3 件の授与をいただいた。

16 期 4 月にローンチした「アニドネ シニア for シニア基金」は、譲渡の難しいシニア犬猫を健康で元気な高齢者（人間のシニア）に飼育してもらう仕組みを支援する取り組みである。

高齢な保護犬猫・高齢者・保護団体の 3 方良の施策の実現により日本の高齢化問題の一助になるよう、アニドネ認定団体のみにとどまらず全国の方への周知を目指す。

2）企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。

特に昨今の情勢不安による影響か、企業からの寄付が昨年と比較し約 80%程に留まった。

3）休眠預金申請

今期、休眠預金ヘエントリーを実施。不採択ではあったが、困難な社会問題において動物を介することでしか得られない成果を明確な事業として確立できるよう、更なる精査と調査を図る。

2. セミナー等の企画運営事業

【目的と意義】

現在の日本の動物福祉に関する問題点をテーマにセミナーを実施。昨今見られる多頭飼育や貧困による保護、保護ビジネスに関して正しい知識を伝えることや、海外の動物法を元に日本のおかれた現状を伝えるセミナーコンテンツを「一般の飼い主向け・寄付企業向け・学生向け・認定団体向け・アニドネボランティア向け」と対象を分け実施。開催は 23 回と増加した。

前期に初出展した「インターペット東京」の展示物「幸せになった保護犬猫達 before after パタパタパネル」が 16 期も各場面で再活用された。保護した犬猫たちがいかに幸せに変わったかをビジュアルで見せることにより、保護犬猫の認知・保護団体の意義提示・優良飼い主の増加を目的とした本展示物は各シーンで大変好評を得た。

16 期にローンチした「アニドネカレッジ」は、新たな取り組みとして情報で保護団体を支援するプロジェクト。日本の保護活動団体は規模も小さくメソッドも確立されていない為、独自で手探り状態である。しかしながら、必死で犬猫（飼い主さん）を救おうとする熱意のある活動団体の奮闘を支え、成長を促すための情報による後方支援活動は大変有意義であると考ええる。

開催実績

日時	場所	対象者	人数	テーマ	講師	主催
2025/06/13 金 10:50-12:20	リアル & オン ライン	帝京科学大学	190 名	アニドネのユニークな取り組み	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	帝京科学大学
2025/06/18 水	オンラ イン	メディア関係者、アカデ ミック関係者、行政職員 及び議員の方々	約 70 名	フランスにおける最新の動物 保護法改正の概要	フ ラ ン ス 動 物 党 党 首 H������ Thouy （エレー ヌ・チュイ）	NPO 法人どうぶつ弁 護団、一般社団法人 JELF、法律事務所 Clar������、及び(公 社)アニマル・ドネー ションの共催

2025/5/30 金 9:00-10:00	オンラ イン	大正大学学生	12 名	犬猫に対する多様性について	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	大正大学
2025/9/11 木 16:00-17:00	リアル & オン ライン	ジョーンズ・ラング・ラ サール株式会社社員	約 40 名	動物先進国と日本と何が違 う？犬猫と人が共に幸せに暮 らすために	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	ジョーンズ・ラング・ ラサール株式会社
2025/9/20 土 16:00-18:00	リアル	佐藤獣医師出版記念イ ベント参加者	約 100 名	欧米の動物福祉事情	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	オルタスジャパン
2025/9/23 木	オンラ イン	京都女子大学学生	170 名	日本で起きている動物（犬猫） 問題について	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	京都女子大学
2025./11/10 月 ～ 2025/11/25 火	オンラ イン	日本動物福祉協会_市民 講座	約 210 名	海外の動物法と暮らしから考 える、日本のこれから	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	公益社団法人日本動 物福祉協会
2025/11/13 木 20:00-21:00	オンラ イン	レディフォー支援者様	5 名	日本の動物福祉問題、多頭飼 育崩壊を解決するために	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2025/12/5 12:00-13:00	オンラ イン	デトロイトトーマツグ ループ社員	97 名	犬猫飼育の環境整備が、もっ と住みやすい社会を生む！ ー日本の動物福祉を世界トッ プレベルへー	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2025/11/22 土 11:00-11:30	リアル	晴海スマイルデーイベ ント参加者株式会社 ANIMANECT	約 30 名	保護犬猫たちのリアルな現 状、そして海外の犬猫との向 き合い方 *保護犬猫パネル展実施	(公社)アニマル・ド ネーション 広報 長嶋奈々海 代表理事 西平衣 里	株 式 会 社 ANIMANECT
2025/10/11 土 10:00-12:00	オンラ イン	アニドネ クラブアニド ネ	7 名	日本の動物福祉の問題と解決 法について	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2025/1/28 水 13:00-14:00	オンラ イン	アニドネ認定保護団体	約 40 名	アニドネカレッジとは	(公社)アニマル・ド ネーション アニカレ担当 長 嶋奈々海	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/3/7 土 13:00-16:30	リアル	行政書士 ADR センター 東京	約 30 名	ペットトラブルシンポジウム アニドネ西平衣里パネリスト	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	行政書士 ADR センタ ー東京
2026/1/22 水 10:00-11:00	オンラ イン	株式会社 Insity 社員	16 名	ペット系メディアとして動物 福祉にどう向き合うか	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/1/27 月 14:30-15:30	リアル	寄付拠出企業	約 10 名	SPP 実績報告&海外動物法の 潮流について	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション

2026/2/25 木 13:00-14:00	オンライン	アニドネ認定保護団体	約 40 名	シニア for シニア	NPO 法人 DOG DUCA 代表 高橋 忍 国立環境研究 所環境リスク 東 京都健康長寿医療 センター 医学博 士 谷口優	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/3/25 水	オンライン	アニドネ認定保護団体	約 40 名	猫の多頭飼育崩壊	NPO 法人猫と人を 繋ぐツキネコ北海 道 代表 吉井美 穂子 副代表 滝 沢礼奈 ねこから 目線株式会社 小 池英梨子	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/4/3 金	リアル	インターペット来場企 業	約 40 名	「犬猫保護団体 活動白書 2025」から考察 動物福祉を” 特別なこと”にしない社会へ	(公社)アニマル・ド ネーション 広報 長嶋奈々海 代表理事 西平衣 里	インターペット東京
2026/4/8 水 14:00-15:00	オンライン	日本瓦斯株式会社(ニチ ガス) 社員	21 名	日本の動物福祉の現状と問題 点を知り、社会貢献を設計す る時代へ	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/4/18 土 10:00-12:00	オンライン	アニドネ クラブアニド ネ	6 名	日本の犬猫問題・海外施策・先 進事例	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/4/22 水 13:00-14:00	オンライン	アニドネ認定保護団体	約 40 名	ボランティア・マネジメント	NPO 法人 IIHOE 人と組織と地球の ための国際研究所 代表 川北秀人	(公社)アニマル・ドネ ーション
2026/4/22 水 15:40-18:00	リアル	東京農業大学学生	約 700 名	アイデアで動物福祉世界トッ プレベルを目指すアニドネチ ャレンジ	(公社)アニマル・ド ネーション 代表理事 西平衣 里	東京農業大学
2026/5/24 水 13:00-14:00	オンライン	アニドネ認定保護団体	約 40 名	認定団体同士で話そう会	(公社)アニマル・ド ネーション アニカレ担当 長 嶋奈々海	(公社)アニマル・ドネ ーション

3. リサーチ事業

【目的と意義】

動物福祉に関する多様な考え方や情報を共有していくことが、社会全体の関心を高め、業界全体がボトムアップしていくために重要である。主な活動である 2021 年から運営している AWGS（*SDGS の概念に則った日本の動物のための Animal Welfare Goals）はその存在を確立しつつある。犬猫問題の根源を改善していくために、引き続き啓発活動や署名活動を実施する。

さらに、今期からは対象動物を犬猫以外に広げリサーチを進め、国内外問わず分野を広げ動物福祉の向上のための啓発活動を続行。

4. 管理事業

【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていただける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拓げる目的である。

1) 公式サポーター（個人賛助会員・法人賛助会員）

当法人の運営を支援いただく「公式サポーター」。今期の会費は昨年と比較すると、個人サポーターが約 185%、法人サポーターが約 142%と大幅に増加となった。

2) スタッフの拡充

運営メンバー6名、有償スタッフを複数名増員。さらに強固な組織基盤を構築する為、各チームにリーダーおよびサブリーダーを配置し活動をより明確化した。

スタッフの知識向上や問題を理解するために内部導入セミナーやオンラインセミナーを定期開催。

志を共にするボランティア組織「クラブアニドネ」約 100 名のスタッフで稼働した。クラブアニドネの多様なスキルを持つスタッフの活動の仕方は非営利且つ中間支援組織ならではの仕組みである。

リアル開催のタウンホールミーティングは、スタッフ同士の交流や法人活動の情報共有の場として好評であり効果的である。

3) 外部アドバイザリーボード

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「審議委員会」を設けている。年 1 回審議委員会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。今期の審議会は、外部有識者 4 名、当法人の代表理事 1 名の合計 5 名で構成している。2025 年 10 月に新認定 9 団体・既存更新 13 団体を認定審議。

5. 税額控除に係る証明の更新申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように税額控除に係る証明の更新申請を行い、令和 5 年 5 月 29 日から令和 10 年 5 月 28 日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

6. 当法人の運営体制の充実を図るための取組み

法人が遵守すべき規程を作成し、各事業やプロジェクト毎の管理リーダーに周知徹底し常にガバナンスのチェックが可能な体制になっている。

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、定期的な助言やアドバイスを求めている。

また、業界を問わず様々な有識者から助言をもらい、偏りなく幅広い視点と知見で法人運営を行うことの出来る体制を心がけている。

外部理事及び監事には、法人運営に伴う様々な判断の根拠となる情報を日常的に提供するとともに、理事会以外でも適宜意見や助言を求め、法人運営への深い理解を醸成している。

リスク管理として寄付決済システムのセキュリティー対策を強化し、不正利用等の防止や情報管理体制を構築。特に寄付金管理部門では常時二重チェック体制を導入している。

社会的課題の解決のための調査をさまざま定期的に実施し情報公開に努めると共に、今後は経年調査も予定。継続的に定点観測が出来る仕組みを構築中である。

以上